

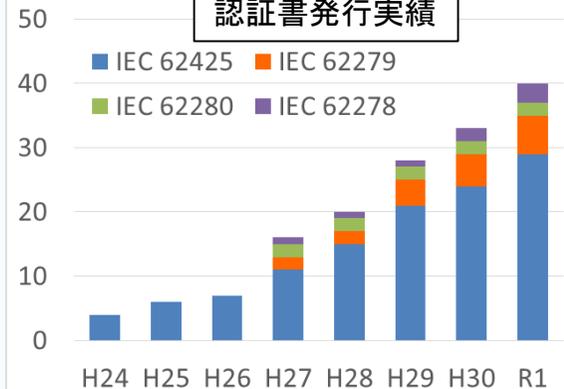
鉄道認証室における最近の活動概要

鉄道認証室 黒川 和浩

鉄道認証室の業務概要

(累計規格数)

認証書発行実績



(全体概要)

- 平成24年に我が国初の鉄道分野における国際規格適合性認証機関として認定を取得
- 認証機関に対する要求事項である国際規格ISO/IEC17065に基づく認証活動を通じ、鉄道製品・技術のうち、鉄道信号装置の国際展開に貢献

鉄道認証室設立時における鉄道技術の海外展開への課題

- 海外の鉄道プロジェクトでは、国際規格等への適合を要求され、**第三者機関による認証**の取得を求められるケースも多い
- 日本のメーカーにとって、海外の認証機関の利用に関し、言語の壁、時差及び技術思想の違いによって生じる時間とコストが課題
- **国内の認証機関は、これまで存在せず**

インフラシステム輸出戦略(令和2年度改訂版)

- 我が国企業のビジネス環境整備のため、国際標準が重要な分野では、世界に通用する**認証基盤の整備**を国内で着実に進める
- 特に鉄道分野において、海外向け車両の仕様の検証、**国内認証機関の充実**、我が国技術の国際標準化、内外メーカーとの連携等を推進

鉄道認証室が日本唯一の鉄道認証機関として認定

- (独)製品評価技術基盤機構認定センター(IAJapan)から、鉄道認証室が**国内唯一の鉄道分野の認証機関として認定**されている※¹(平成24年9月に認定を取得)
- 平成28年9月に認定規格を2規格※²追加、平成30年5月には海外輸出において特に重要な**RAMS規格**※³(IEC 62278)の追加により認定規格を4規格まで**拡大**し、認証機関としての国際通用性を着実に高めている

※¹ ISO/IEC Guide 65(現 ISO/IEC 17065)に基づく機関として認定。
H24年に、機関の認定とともに取得した認定規格はIEC 62425(信号用の安全関連電子システム)

※² H28の追加規格はIEC 62279(鉄道の制御、保護システム用ソフトウェア)及びIEC 62280(トランスミッションシステムにおける安全性に関する通信)
※³ RAMSは、信頼性(Reliability)、アベイラビリティ(Availability)、保全性(Maintainability)、安全性(Safety)の略。ライフサイクル全般を通じて、鉄道システムの左記4要素を確保するプロセスについて規定された国際規格

- <役割> 日本の**鉄道技術・安全実績・設計思想**を熟知し、**日本語で対応**できる
- <実績> **累計40規格(35案件)の認証書を発行**(令和2年3月末現在)

(対外的な関係者) ○官: 国交省鉄道局 ○民: 鉄道信号メーカー、鉄道関連メーカー、鉄道事業者、業界団体